

## 自 己 評 価 表

教育方針	徳・知・体の調和のとれた健全な心身の発達を目指し、個性豊かな人間の育成を期する。	重点目標	1 温かい人間性と豊かな社会性を身に付けさせる。 2 高い知性と豊かな創造性を養う。 3 強い意志とたくましい体力を培う。
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
温かい人間性と豊かな社会性	基本的生活習慣の確立	規則正しい生活をする事で体調管理に努めさせ、年間通して欠席0日の生徒70%以上を目指します。 A : 70%以上 B : 69~60% C : 59~50% D : 49~40% E : 40%未満	B	欠席0日の生徒は約65%であった。新型コロナウイルス感染症の影響で、欠席者はやや増加傾向であったのはやむを得ないところもあるが、この機会に、体調管理になお一層努めさせ、ウイズコロナの生活様式を定着させたい。	・うがいや手洗い、手指消毒の習慣を身に付けさせ、新型コロナだけではなく、インフルエンザや感染性胃腸炎などの流行性感冒の防止にも努めさせていきたい。
	安心・安全な学習環境の確保と心身の健康	自他の生命を尊重する態度を身に付けさせるとともに、交通事故ゼロを目指します。	C	軽微な交通事故が、例年並みに年間十数件発生しており、減少していない。原因の分析を急ぎ、改善策を講じた。	・外部機関から講師を招いて、年度早期の交通安全講話を実施したい。また、警察署との合同交通指導を定期的に行ってきたい。
		「心の悩み」解消をサポートし、充実感の持てる学校を目指します。	C	諸検査やアンケート、及びその追跡を行い、悩み解消のサポートに取り組んだ。	・諸検査や学校生活アンケートを活用し、悩みの早期発見に努めたい。また相談室の利用が気軽にできる環境を整えていきたい。
		保護者・地域に支えられた学校として、PTA総会出席率40%、保護者懇談会出席率100%を目指します。 PTA総会 A : 40%以上 B : 39~30% C : 29~20% D : 19~10% E : 10%未満 保護者懇談会 A : 100% B : 99~80% C : 79~60% D : 59~40% E : 40%未満	B	PTA総会は新型コロナウイルス感染症の影響で中止になり、代わりに書面での承認となったが、保護者からの承認書回答率が94.6%と高い結果となった。保護者懇談会は例年通りほぼ100%に近い数値であった。	・PTA総会は、例年どおり授業参観と学校行事(陸上競技大会)を行い、出席率を40%以上にあげたい。
	安心して活動できる学校を維持するための防災教育や環境教育を充実させます。	B	防災避難訓練、シェイクアウト訓練を2回ずつ実施した。コロナ禍により一斉避難訓練はできなかったが、熱心に取り組めた。	・自然災害や南海トラフ巨大地震等から命を守るため、学校防災体制の見直しや備蓄品の確認など防災教育を推進したい。	

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
高い知性と豊かな創造性	学ぶ意欲を高揚させる教科指導の充実 (授業改善への取組み)	ICTの活用などにより、主体的・対話的で深い学びを積極的に取り入れ、授業満足度100%を目指します。(「授業に関する生徒評価」4.8ポイント以上) A : 4.8p. 以上 B : 4.7~4.6p. C : 4.5~4.4p. D : 4.3~4.2p. E : 4.2p. 未満	A	授業に関する生徒評価は、全体平均4.8ポイントと目標を達成できた。また、今年度途中より各教室に電子黒板が設置され、各教科でICT機器を利用した授業が行われた。	・ICT機器の効果的な活用方法について、研究を進めていきたい。
	自ら学び自ら考える力を育てる 家庭学習の充実	確かな学力の定着を図るために、課題の与え方を工夫し、家庭学習1日平均4時間以上を目指します。	B	家庭学習時間は、3年生が通年6時間、1・2年生は考査発表中が5.4時間、平常時が4時間と、昨年度より大幅に増加した。	・家庭学習時間の増加により、学力の定着が見られているか研究していきたい。
	読書活動の推進と思索する態度の育成	年間1回以上のクラス読書会、2回以上の全校読書会、全学年による朝読書を実施します。 「蛍雪ライブラリー」の活用、読書レポート・読書感想文などの実施を通して、より高いレベルで読書し思索する態度を育てます。	B	全学年による朝読書は各学年団の指導及び図書委員会の取組により概ね良好であった。年2回の校内読書界は充実しており、秋の読書週間には昨年に引き続き啓発放送も実施した。国語科・ZESTを中心に感想文・読書レポート・新書レポートも推進した。	・引き続き、全学年での朝読書を実施したい。120周年を機に、蛍雪ライブラリーをさらに充実させ、各教科・ZEST・ホームルーム活動・図書館だより・図書館読書会などにより、読書の質・量のさらなる向上を図りたい。
強い意志とたくましい体力	特別活動の充実と連帯感の醸成	学校行事を精選し特別活動をより充実したものに、たくましい心と体を育てます。 ボランティア活動への参加を促し、「共生」の心を育てます。	B	新型コロナウイルス感染症の影響で計画されていた行事の縮小を余儀なくされたが、運動会が開催できたことが唯一の思い出となり、ささやかな充実感が得られた。	・120周年記念行事として生徒の思い出に残る活動にしていきたい。
	部活動の充実と心身の健やかな成長	レベルの高い学習と部活動の両立を目指し、生き生きとした学校生活を送れる環境づくりに努めます。(部活動加入率100%) A : 90%以上 B : 89~80% C : 79~70% D : 69~60% E : 60%未満	B	部活動加入率は90%を超え希望に満ちた学校生活を送れるはずが、新型コロナウイルス感染症の影響で総体が中止、全国高文祭はweb開催など活動が制限され、不完全燃焼の1年となった。	・コロナ禍で工夫して活動したことを、実践できる1年としたい。
	人権・同和教育の充実と豊かな心の育成	「部活動の在り方に関する方針」に基づいて、適切な活動を行います。	A	学習と部活動の両立を目指し、双方について工夫をして乗り切った。	・大会等が開催されることを信じて準備を計画を立てて行いたい。
		人権尊重の意識を更に高め、差別解消への実践力を高めます。	B	生徒・教職員とも対外的な学びや研修の機会が少なくなったが、実施できたものには一定の効果があった。	・同和問題も含めた広範な人権問題への認識を深めさせたい。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
夢の実現	進学指導の充実と進路意識の醸成	生徒全員の自己実現・進路実現を目指します。 (国立大学合格率70%以上) A : 70%以上 B : 69~65% C : 64~60% D : 59~55% E : 55%未満 (国立難関大学合格40名以上) A : 40人以上 B : 39~35人 C : 34~30人 D : 29~25人 E : 25人未満	D	総合型選抜・学校推薦型選抜では、昨年度5/20(合格者数/受験者数)、14/53であった結果が、本年度は6/16、14/43と志願者数を減らしたが合格率は大幅に上昇した。大学入学共通テストの平均点は昨年のセンター試験よりやや上昇し、思考力の問われる新テストにも対応できている。難関大学は、24名と昨年よりも人数を減らした。理系の生徒を中心に挑戦してくれたが、結果は思わしくなかった。基礎力と記述力を身に付けるため、低学年からの指導が重要である。	・思考力・判断力・表現力を高める授業改善を継続することで、大学入学共通テストへの備えをしっかりとしていきたい。特別活動や、コンテスト等で実績のある生徒には、総合型選抜や学校推薦型選抜による受験を勧めたい。
		高大連携を深め、視野を広げ、学びへのモチベーションを高めます。	B	コロナ禍によりオープンキャンパスや他校との合同学習や宿泊等の事業が中止となる中で、螢雪大学や高校生のための金曜特別講座(東大主催)など、オンラインで可能な高大連携を深めた。自己実現を目指して主体的に学習に取り組む生徒の育成を図ることができ	・Classiと螢雪キャリアノートを効果的に活用させることで、生徒が自らの学びを蓄積する指導を行い、生徒が積極的に進路行事に参加するよう促していきたい。
		「西高に入学してよかった」と思う生徒の育成を目指します。(「学校評価(生徒評価)」4.5ポイント以上) A : 4.5p.以上 B : 4.4~4.0p. C : 3.9~3.5p. D : 3.4~3.0p. E : 3.0p.未満	B	生徒評価は4.4ポイントで、昨年度と同じであった。進路に関する項目では、「進路に関する情報を活用し、生徒の実態に応じた進路相談が行われている」が4.5と高くなっている。	・新入試の分析を進めて適切な情報を周知し、進路意識を高揚させることで、学業や学校生活の充実度を高めていきたい。
安全管理	開かれた学校づくり	ホームページに毎日の生徒の活動や連絡事項を掲載するなどして情報発信に努めます。	B	毎日の活動の様子などを掲載し、広く情報を発信することができた。また、classiなどクラウドの活用もある程度促進できた。	・ウェブサイトのデザインや発信の内容など、常に見直し、より適切で効果的なものにした。
	安全管理	情報の適切な保管・管理に努め、事務処理の適正化を徹底します。	B	Sky Menuや校務系の共有フォルダの利用などにより、適切に情報管理ができた。	・紙媒体も含め、より安全で使いやすい情報の保全、運用形態を模索したい。
		施設・設備の安全点検、改修を徹底し、事故の防止に努めます。	B	「点検の日」を毎月設け、4月・8月・1月には校内安全点検を実施した。補修箇所は、対応可能な所からすぐに直している。	・校舎や施設の老朽化に伴う補修箇所は優先順位を検討し、迅速かつ適切に対応していきたい。
業務改善	働き方改革の推進	業務の効率化・平準化を図り、勤務時間の適正化によってワーク・ライフ・バランスの取組を推進します。	C	学校閉庁日の設定や部活動の練習時間の厳守を職員間で共有することで、昨年度に比べ大幅に勤務時間外在校等時間を減少させることができた。また、テレワークや時差出勤を積極的に取り組むことができた。	・校務分掌課長には、年度当初に業務内容の見直しや改善策等について、目標チャレンジシートに記載してもらい、積極的にを行うように指示を出す。
	職場環境の整備	毎月の衛生委員会実施や職場の整理整頓等により、教職員の心身の健康に関する啓発を行います。	B	毎月の衛生委員会実施や、職員室内の下駄箱の整理整頓など、職場環境の改善に努めた。	・職場の環境美化に取り組む意識の高い教職員を増やすことから始めたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。